

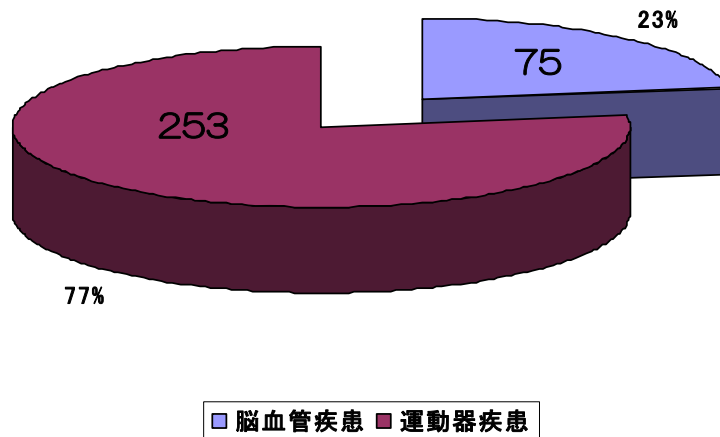
和仁会病院 回復期リハビリテーション病棟実績報告

平成26年4月1日から平成27年3月31日までの1年間に当院回復期リハビリテーション病棟に入院された患者(328例)について内容を分析したので、ここに報告する。

1. 対象者内訳 (n=328)

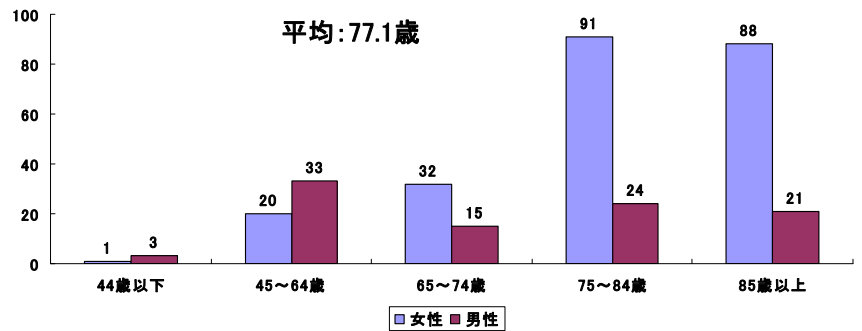
①疾患割合

※グラフ内数字は実数を示す



②年齢割合

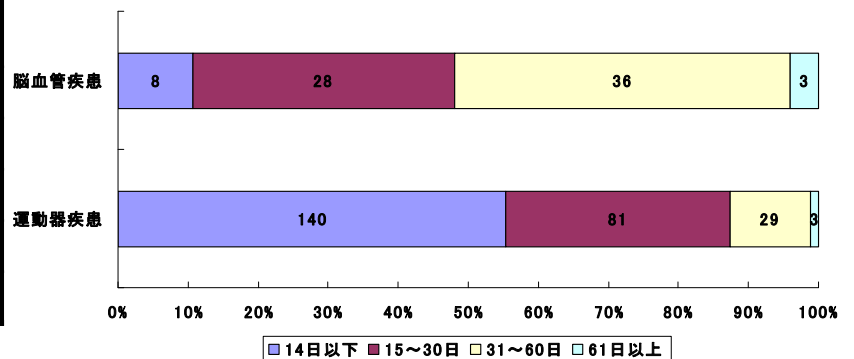
年齢割合	女性	男性
44歳以下	1	3
45～64歳	20	33
65～74歳	32	15
75～84歳	91	24
85歳以上	88	21
合計	232	96



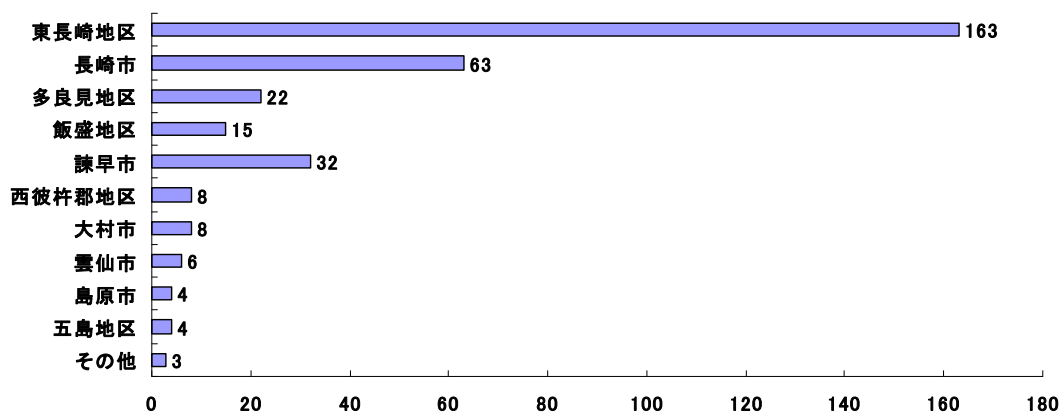
③入院までの期間

	脳血管疾患	運動器疾患
14日以下	8	140
15～30日	28	81
31～60日	36	29
61日以上	3	3
合計	75	253

※グラフ内数字は実数を示す



④ご自宅の地域

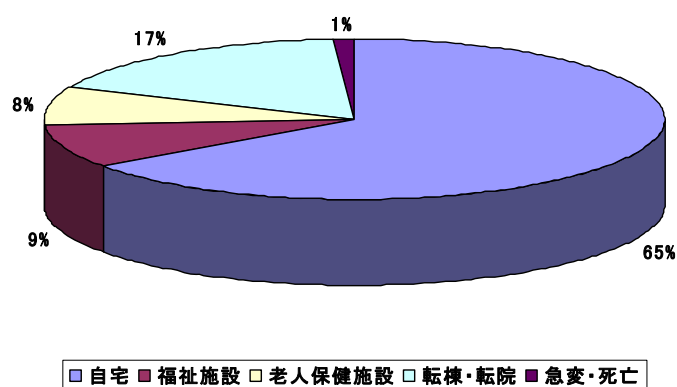


退院先	人数
東長崎地区	163
長崎市	63
多良見地区	22
飯盛地区	15
諫早市	32
西彼杵郡地区	8
大村市	8
雲仙市	6
島原市	4
五島地区	4
その他	3
合計	328

2. 実績報告 (実績報告は入院中の患者を除く n=252)

①退院先

退院先	人数	割合
自宅	164	65%
福祉施設	22	9%
老人保健施設	20	8%
転棟・転院	43	17%
急変・死亡	3	1%
合計	252	100%

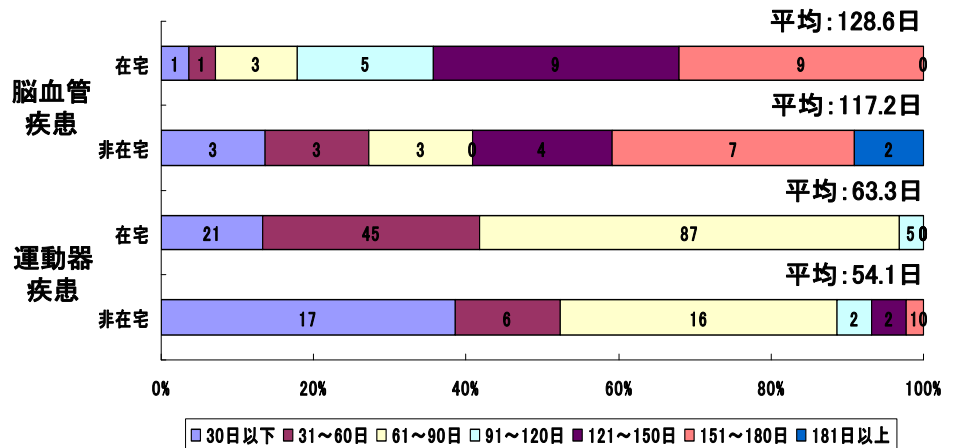


退院先は、自宅への退院が65%、『在宅』扱いとなる福祉施設への退院が9%であった。これら2つを合わせると在宅復帰率が74%という結果であった。

② 在院日数

※グラフ内数字は実数を示す

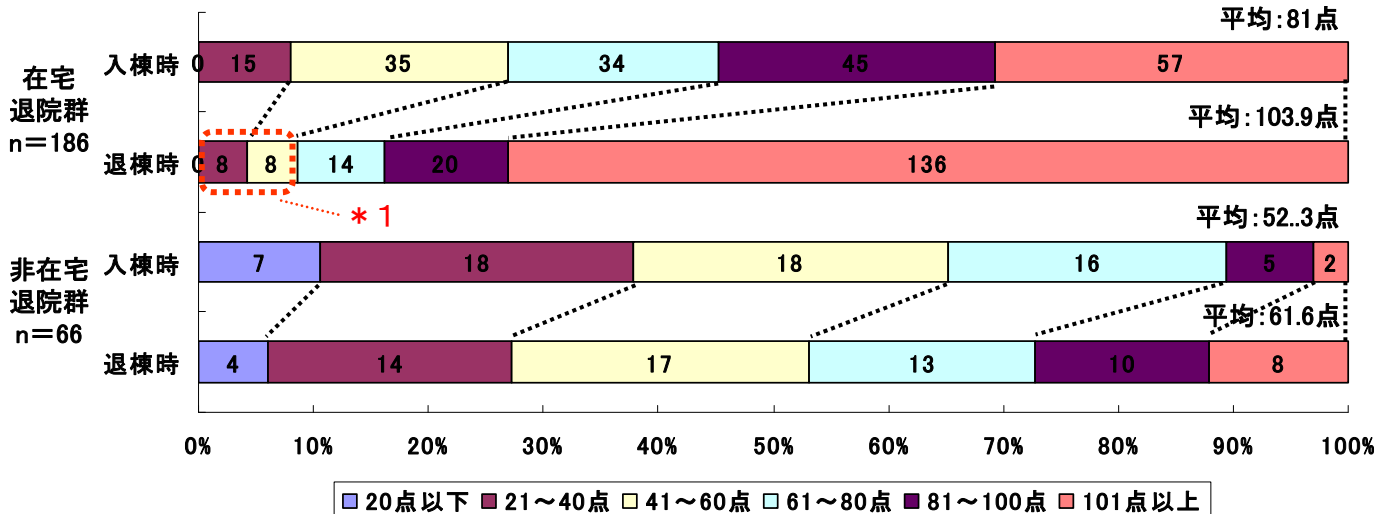
	脳血管疾患	運動器疾患
30日以下	4	38
31～60日	4	51
61～90日	6	103
91～120日	5	7
121～150日	13	2
151～180日	16	1
181日以上	2	0
合計	50	202



回復期リハビリテーション病棟の入院日数は、脳血管疾患で、高次脳機能障害がある場合は180日、高次脳機能障害がない場合は150日となっており、運動器疾患は90日となっている。当院では、脳血管疾患患者は90日以内の退院者が約28%で、運動器疾患は60日以内の退院者が約44%という結果であった。

③ FIM指数の変化

※グラフ内数字は実数を示す



FIMとは、機能的自立度評価表 (Functional Independence Measure) の略であり、日常生活活動を7点満点の18項目 (食事・更衣・移動・排泄・理解・記憶など) で評価したもので、全項目完全自立の場合126点となる。

一般的に器具などを使用しての修正自立の場合6点と評価し、合計100点付近が在宅復帰の目安とされている。

退院先別のスコアでは在宅退院群が平均103.9点で非在宅退院群が61.6点と大きな差が見られた。

しかしながら、在宅退院群の中には60点以下の重度障害者 (介助必要者) 16例が含まれており、これらを在宅へ結びつけることができた。[*1]

④ 日常生活機能指標の変化

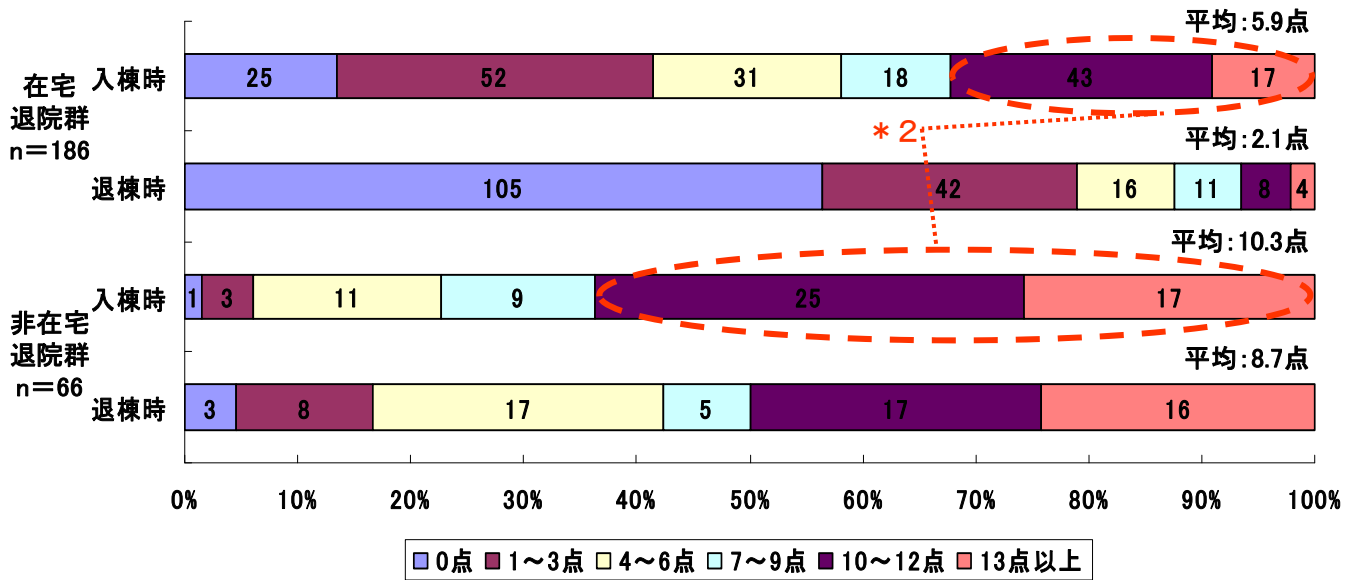
日常生活機能指標は看護師が行う評価であり、点数が低いほど介助量が少なく、自立度が高いという評価である。

入棟時の全体平均点は7.0点であり、重症者と言われる10点以上の割合が、全体の40%であった。

退棟時の全体平均点は3.8点であり、重症者の割合は19%に減少していた。

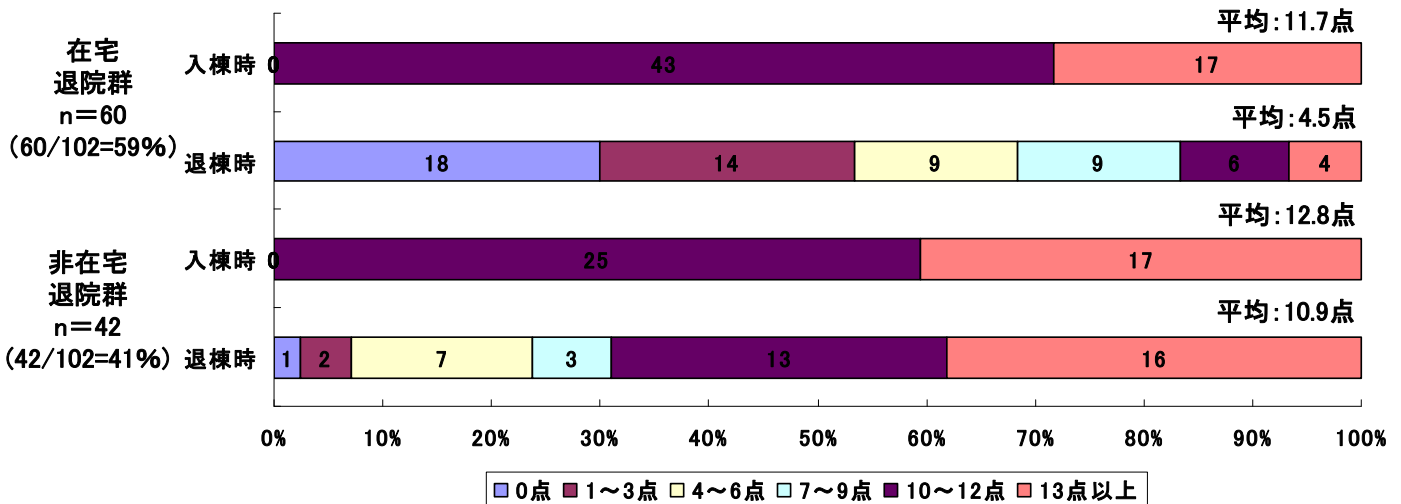
以下に退院先別に見た日常生活機能指標の変化を示す。

※グラフ内数字は実数を示す



* 入棟時、重症者だった102例[*2]を退院先別にスコアの変化を示す。

※グラフ内数字は実数を示す



入院時10点以上の重症者は102例であった。そのうち60例の方が在宅へ退院され、なかでも32例の方は3点以下と、ほとんど介助を要しない状態で退院された。また10点以上の方も家族の協力や社会資源の利用により10例在宅に戻られた。